

平成27年10月23日

(苫小牧市自治推進会議での説明)

柏木町町内会
副会長 辰田 順治

町内会活動の現状について

*資料～①27年9月会館使用予定表

②27年10月会員回覧「つたえ～る」

③26年10月全戸配布「つたえ～る」

④26年度の事業報告

1 柏木町町内会の現状

(1) 会員数

1,610世帯 (市統計では2,429世帯～柏木町2,192 はまなす町237)

(2) 加入率

66.3%

(3) 会計状況

ア 26年度収入額 1,238万円 (前年度からの繰越額472万円を除く)

*内訳 町内会費 672万円～@350×12月×1,600世帯

市補助金 490 〃～街路灯電気料補助を含む

その他 76 〃

イ 支出額 1,247万円

*内訳 活動費 893万円～街路灯電気料仮払を含む

会館運営 204 〃

会館建設基金 150 〃～基金累計3,128万円

ウ 差引残額 △ 9万円

エ 27年度への繰越額 463万円 (次年度3カ月間のつなぎ資金は約150万円必要)

(4) 役員体制

ア 合計 214名 会長、副会長6、監査2、部長9、副部長64、区長7、副区長7
民生児童委員8、班長110

イ 報酬 部長と区長には年間5千円
班長と会計部副部長には年間千円のギフト券

(5) 町内会館

ア 規模 敷地1,277㎡(386坪) 建物346㎡(104坪)～昭和50年に地主から寄付

イ 建替問題 新築合計6200万円～建物5700万円、駐車場150万円、解体300万円、
引越50万円

*改修を重ね、維持していく方向がベターとの考えが強い。

(6) 26年度の町内会行事

(別紙参照)

- ・9部において、幅広い行事を熱心に実施している。

(7) 町内会の取り組みは、うまくいっているのか

今のところ、会費徴収から行事实施までスムーズに進んでいる。その要因としては、次のことが考えられる。

- ・会長をはじめ、ボランティア精神の強い役員に恵まれている。
- ・毎月1回、四役会議と役員会を開き、いわゆる「ハウレンソウ」で行事を確認している。
- ・会員も事業数も多いため、各部長は部会を開き、副部長と連携し行事を進めている。
- ・会員には月1回の回覧板(小中学校広報を含め毎月6枚前後)で行事を周知している。
- ・町内の新聞販売店に市広報紙や町内会印刷物の配布を委託し、役員の負担を軽くしている。

(8) 町内会が連携している団体

- ・町内老人クラブ～町内会への各行事に幅広く協力。町内会は補助金27万円を支出。会館使用料も無料にしている。
- ・安全安心パトロール隊～40名程の隊員が登下校時に交差点などで安全指導。町内会はジャンパーや消耗品、交流会などの経費を負担。
- ・豊陵公園フラワー倶楽部～30名程の会員が花壇を整備。町内会は植栽用の種や肥料などの経費約10万円を負担。毎年、花壇コンクールで受賞している。
- ・ごみステーションパトロール隊～2年間の報告義務が終了し、今年はアパート向けチラシ配布や市への通報などを実施。隊員は7名で町内会長や総務部長も登録。
- ・糸井地区商栄会～糸井山神社祭り協賛祭り主催のほか、神社役員も派遣。町内会は神社祭りの手伝いに役員10名派遣している。
- ・あおぞら幼稚園～毎年の港祭り市民おどりに30名もの先生が参加。おかげで毎年、受賞。
- ・小中学校～特に小学校の先生は自転車者教室やクリスマス会などに参加、協力。町内会は川沿町と合同で、毎年「6年生卒業もちつき会」を実施。
- ・グループホーム柏木～参加可能な入所者は、行事に参加。町内会は運営委員会役員に約10名が就任。
- ・泉野イーグルス少年野球チーム～子どもみこしの担ぎ手として参加。町内会は補助金5万円支出。

2 町内会が独自に実施している内容

(1) 福祉

- ・ふれあいサロン
年8回、会館で健康体操や懇談会、食事会。食事代1回100円を徴収。毎回30名程が参加。
- ・ふまネット教室
年10回、会館で実施。研修を受けた部員が講師役。毎回20名程が参加。

(2) 青少年対策部

- ・糸井山神社祭り、子どもみこしパレード

6月、2コースに分かれ町内をリヤカーで巡回。地元の野球部員に先導役を依頼。

- ・夏祭り&盆踊り

屋台を出し、大人と子どもに分かれて踊っている。3時間ほどの行事に約27万円の支出。

(3) 女性部

- ・女性部バス親睦旅行

毎年、バス1~2台で親睦を図っている。研修先に苦慮しているようだ。

(4) 体育部

- ・パークゴルフ大会

町内の会場に70名程が参加し、次年度の市内対抗戦の選手も選抜。

(5) 交通安全部

- ・子ども自転車教室

市指導員のほか教師も加わり、小学生以下の子供に実践指導。

(6) 文化社会部

- ・港祭り市民踊りへの参加

参加チームが減少している「2曲部門」に参加。しかし、青空幼稚園の協力が不可欠。

(7) 防災部

- ・防犯パトロール

冬場を除き、毎月1回実施。毎回15名程が参加しているが、メンバーは固定。

(8) 総務部

- ・地域要望と回答の広報

年2回は「全世帯向け」広報を配布。秋には地域要望と市からの回答を詳しく載せている。

3 実施が難しく、困っていること

(1) 募金

糸井山神社祭りを含めて年間4回の寄付のうち、6月の日赤募金は「町内会としての一括納付」にしている。しかし、町内会費徴収のほか、3回の募金は班長の負担になっている。

さらに、一括納付を増やす意見も出ている。

(2) 市や町連の行事への参加

市町連などの行事に担当部は参加しているが、担当以外の部はあまり足が向かない。

(3) 班長のなりて

独居老人世帯が増え、輪番制の班長(10~15軒を担当)を拒否する人も増えてきている。

(4) 未加入者への呼びかけ

町内会の「廃品回収日」や「一斉大掃除の日」などに参加してほしいが、周知が難しい。

4 未加入者対策

戸建て住宅への転入者には入会を呼びかけているが、アパート入居者への対応は非常に弱い。

(1) 区ごとに違い

7区(丁目ごと)あるが、各区の対応が若干違う。アパート入居者は転出入が多いことから、ほとんど勧誘しない区長もいる。改めて対応の統一が必要と考えている。

(2) 呼びかけチラシ

区長の連絡先などを載せたチラシを作ったことがあるが、今は途絶えている。

(3) 班長の負担

転入者への呼びかけは、まずは当番制の班長が行うことになっているが、何かと負担になっているようだ。区長のフォローがさらに必要になっている。

5 市や町内会連合会への要望

(1) 町内会の活動交流会

市町連主催の地区別交流会はテーマを設けて数年に1回行っているが、例えば会館運営や会計、事業、悩みなどを報告する実務的な交流会を開いてほしい。

当町内会では他の町内会に直接、問い合わせたり、市町連の事務所で各町の議案を閲覧させてもらっている。

(2) 町内会の実態調査

市町連として、各町内会の「決算、事業、規約」等を定期的にまとめ、配布してほしい。

(3) 顔の見える関係

イベントでのごみ分別作業や防災訓練、出前講座などで直接、市職員と話し合うと実にわかりやすいし、その後も連絡しやすいとの声は多い。ケースはいろいろあるが、町内会役員と話し合う機会を極力、増やしてほしい。

6 協力できる市の業務

町内会として業務が増えることは望んでいないが、次のような事であれば可能。

- ・大雨対策の「土のう袋箱」の設置
- ・冬場の「滑り止め土砂」の散布
- ・ごみステーションの巡回

7 その他